

科目名		建築施工Ⅱ			
担当教員		渡邊 晋太郎		実務授業の有無	
対象学科		建築大工科	対象学年		2
必修・選択		必修	単位数		2
			開講時期		前期
			時間数		32
授業概要、目的、授業の進め方		建築物の構造躯体である鉄骨工事の分野から学んでいく。 この前期では、その他の内外装工事のいろいろな施工方法や製品管理の仕方、材料の種類などを詳しく学び、それが理解できる様になることを目的とする。 後期に目指す2級建築施工管理学科試験、そしてその後の2級建築士学科試験を見据えて、詳しく学習する。			
学習目標 (到達目標)		2級建築施工管理学科試験、2級建築士試験合格レベルの知識定着を目標とする。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		図説 やさしい建築施工 (学芸出版社)、配布プリント			
NO.	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	鉄骨工事 (工場作業)		鉄骨造の基礎部分についてや、ボルトの種類、加工図、現寸検査などの役割などを理解できる。また、溶接方法、鉄骨部材の製品検査の方法が理解できる。		
2	鉄骨工事 (現場作業)		鉄骨の建て方の工程を理解できるようになる。それに付随するアンカーボルトの役目や高力ボルトの役目を理解することができる。また、耐火被覆との密接性も勉強する。		
3	屋根工事		屋根工事の種類を覚え、雨仕舞の施工方法を理解することができる。		
4	防水工事		防水工事の種類を理解し、納まりや手法を理解することができる。防水の一種でもある【シーリング工事】も一緒に学ぶ。		
5	左官工事		左官工事にかかわる材料の種類を学び、それをどのような工程で施工していくのかを理解する。		
6	タイル工事		タイルの種類を理解し、その施工方法を学ぶ。		
7	石工事		張り石工事の施工方法の種類を理解することができる。		
8	内装工事				
9	順次 評価テストを実施する。 (4回以上実施予定)				
10					
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価テスト	取組姿勢			評価テストを随時実施し、その評価を加える。課題提出を課した場合は、提出の有無、提出期限の厳守、課題内容によって取組姿勢を評価する。取組姿勢に関しては、出席率や遅刻回数も加味する。日頃の学習を疎かにすることなく、授業に臨むこと。	
80 %	20 %	%	%	建築施工は質の高い建物をつくる知識はもちろん、質の高い設計、安全な現場をつくる上でも重要な知識を学習する。「なぜそうなるのか」を	
成績評価基準は A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		意匠設計実務9年			